

ブッククラブで子どもの心を開く  
「にじいろのさかな」で楽しくロールプレイ

松原 ゆかり  
ありもと ひでふみ

## 要旨

単元名 「絵本を楽しんで、考えたことを伝え合おう」

単元のねらい

- ・教師と一緒にブッククラブの学習法で絵本を楽しむことができる。
- ・物語の前後関係をとらえることができる。
- ・読んだことについて、自分の気持ちを教師や友達と話すことができる。

学習指導上のヒント

次のような工夫をしたことが効果を上げたと思う。

- 1) どの子も理解できる本を選ぶ。
- 2) どの子も興味を持てる本を選ぶ。
- 3) 読み聞かせの中で理解を促すための発問をし、全員が理解できるようにする。
- 4) ロールプレイ（役割を決めた寸劇）を取り入れて登場人物に共感させる。
- 5) キャラクターマップ（人物相関図）を教師が子どもと協働して描いて人物関係を押さえる。
- 6) どの子も答えやすく興味を持てる大きな問いを出して発言を引き出してから書かせた。
- 7) 自分で考えられない子には選択肢を与えて選ばせる。
- 8) 授業の初めに前時に読んだところを振り返らせてから先に進んだ。

1 単元名 「絵本を楽しんで、考えたことを伝え合おう」

授業者 松原ゆかり

対象児童 特別支援学級3年生（国語科）

授業日 平成28年6月8日（水）

2 単元のねらい

- ・教師と一緒にブッククラブ\*の学習法で絵本を楽しむことができる。  
（有元秀文,2016, 2015, 2012, 2011、ウィキペディア）
- ・物語の前後関係をとらえることができる。
- ・読んだことについて、自分の気持ちを教師や友達と話すことができる。

3 評価規準

- ・絵本を楽しむことができたか。（表情、態度や発話から評価）
- ・物語の大筋を理解することができたか。（教師の問いへの返答から評価）
- ・自分の気持ちなどを表現することができたか。（書いたものや発話から評価）

4 児童の実態

児童は、男子4名、女子1名、合計5名である。

絵本はみんな大好きで、絵本を教材とした学習に意欲的である。

全員、語彙量が極端に少なく、とくに自閉症の二人は、認知的な理解の困難に伴い、理由を述べるなど論理的な思考や教師との対話の成立が難しい。

## 5 指導方法について

この単元ではブッククラブという指導法を採用した。

(有元秀文,2016, 2015, 2012, 2011、ウィキペディア)

## 6 単元計画 (全6時間、省略)

## 7 本時のねらい

- ・ロールプレイを通して、場面を理解し、登場人物の気持ちを話すことができる。

## 8 本時の指導計画 (1/6時間)

	学習活動・教師の働きかけ	指導上の留意点・☆評価
導入	○絵本を読み聞かせしながら、教師の問いに答える。  ○にじうおがひとりぼっちになる場面の最後まで、教師の読み聞かせを聞く。	・単なる読み聞かせだけではなく、理解を補うための問いかけを行う。
展開	○ちいさなあおいさかなになり、ロールプレイをする。  ○にじうおになり、ロールプレイをする。  ○にじうおの気持ちを考える。	・教師は、にじうおになり、児童にちいさなあおいさかなの気持ちを考えさせる。 ・役割を交代する。
まとめ	○登場人物を確認し、特徴を教師のお手本を見て、図にまとめる。	・登場人物を図にまとめることで、内容を想起しやすくする。 ☆登場人物の特徴や行動を話すことができた

## 9 授業記録

### 1 時間目

#### <導入>

- ・表紙のタイトルと絵と挿絵からどんな話か予測させた

次に、にじうおが「返事もせず得意になって通り過ぎる」ところを読んで

T:「こんな子どう思う？」

これは文章の理解を助けるために、自分の問題として考えさせる、ブッククラブの「パーソナル・

リーディング（個人的読み）」でもあり、登場人物の行動を評価・批判させる「クリティカル・リーディング（評価読み・批判読み）」でもある。

（有元秀文,2016, 2015, 2012, 2011、ウィキペディア）

C1：「いやだ」

T：「こんな子周りにいる？」

C2：「おねえちゃんにされた」

T：あおいさかなの「きらきらうろこを1枚おくれよ」というお願いを聞いて、にじうおはどうするか？

C1：「あげる」

T「(にじうおは) へんじもせず、とくいになって」と書いてあるよね。こういう魚はきらきらうろこをあげると思う？」

C2：「あげたくない」

C3：「あげない」

<展開>

・教師は、にじうおになり、児童はちいさなあおい魚になってロールプレイをし、児童にちいさなあおいさかなの気持ちを考えさせる。

・子どもはちいさなあおいさかなの、教師はにじうおの絵を首にかける。

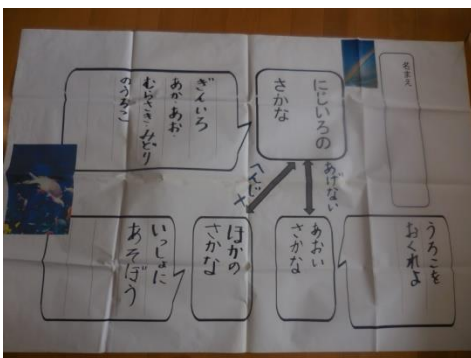
○今度は児童がにじうおになり、教師がちいさなあおい魚になりロールプレイをする。

ただ、教師と子どもとの応答のみの座学では得られない能動的な活動ができた効果があった。

また、登場人物の役割になり切ることで、登場人物に感情移入することができ、物語の理解を深めることができた。

2時間目

○小さい魚と、にじうおの気持ちを考える。



模造紙に、主な登場人物の相互関係を教師が図示した人物相関図（キャラクターマップ）を示し、登場人物とあらすじについて確認した。

ロールプレイの後で、「小さなあおい魚はどんなきもちになっただろう？」という問いで書かせた。

女子児童 A

は	い	つ	り	り	も	い	た	と
り	で	ち	き	で	う	も	か	ん
ま	く	い	う	さ	か	で	な	な
た	さ	け	で	か	か	し	。	づ
い	た	け	。	か	ち	た		も
で	り	て		り	り			ち
す	。	り	ま	か	た			に
。	ま	か	う	か	く			な
	た	な	す	か	な			っ

男子児童 B

						と	き	い	に
						く	ら	や	に
						べ	ま	な	じ
						っ	ら	き	ら
						に	う	も	お
						あ	う	ち	の
						げ	こ		き
						る	き		も
						よ			ち

書いたものを前に出て発表させた。

						と	き	い	
						く	ら	や	に
						べ	ま	な	じ
						っ	ら	き	ら
						に	う	も	お
						あ	う	ち	の
						げ	こ		き
						る	き		も
						よ			ち

次に、教師が「にじうおは、どんな気持ちだった？」と尋ねて書かせた。

教師は「みんなあおいさかなたちはにげてっちゃったよ。また一人ぼっちになっちゃったね」と言葉かけをした。表現する力のとぼしい児童だが、教師の言葉かけによって

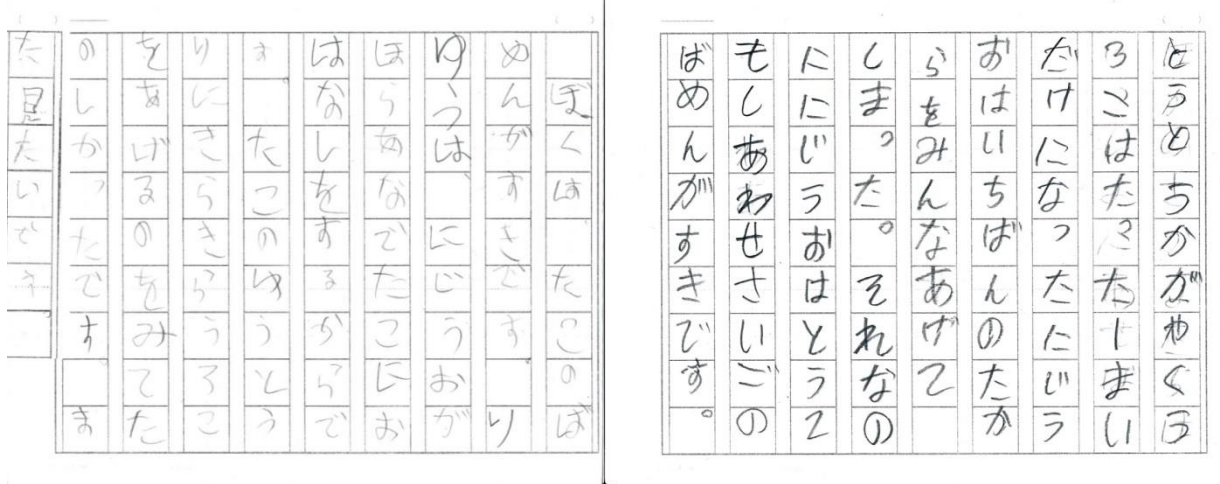
- ・登場人物に共感する力
- ・本文をふまえて先を予測する力が育っていることがわかる。

6 時間目

「このお話で一番好きな場面はどこでしたか？」という問いで書かせた。

男子児童 D

男子児童 E



・好きな理由が具体的に書け、通常学級の児童とそん色ない。

## 10 考察

### (1) 進め方と時間配分

ロールプレイに子どもたちが興味を持ち、盛り上がりすぎた成功の事例と言うべきであろう。

### (2) 読み聞かせの応答

自閉的な子どもは質問に答えられない場合が多いので、答えを選択肢として用意して選ばせるようにすると、だんだんに答えられるようになった。

### (3) ロールプレイの効果

ロールプレイの効果は

- ① 座学ではなくアクティブな活動なので変化があり、集中が難しい子供にも、集中して学習させることができた。
- ② 子どもが興味を持ち楽しんで学習することができた。
- ③ 登場人物に共感することができた。
- ④ せりふを分割して役割分担して読む活動では、友達との協同作業で交流が生まれた。

### (4) 作文

ブッククラブを始めた当初は1文程度しか書けなかったが、毎時間書かせた結果、全部の児童が2文以上書けるようになった。中には、原稿用紙（81文字）を超えて書き、普通学級の児童と比べても見劣りしない児童も育ってきた。

### (5) ねらいは達成できたか

- ① 教師と一緒にブッククラブの学習法で絵本を楽しむことができる。

教師が聞きたいことより子どもが話したいことを話させるような問いを工夫しているので、子どもの意欲を高めることができた。

② 物語の前後関係をとらえることができる。

キャラクターマップ（人物相関図）を教師が子どもと協働して描いたり読み聞かせの間に理解を促す発問をしたりすることによって、全部の子どもが物語の大筋を理解できた。

③ 読んだことについて、自分の気持ちを教師や友達と話すことができる。

とくに、自閉の子どもが自分の考えを表現することは困難であるが、教師が手本を示したり答えを選択肢で示して選ばせたりすることで、全員が表現できるようになった。

### （9）学習指導上のヒント

ブッククラブの実施にあたって次のような工夫をしたことが効果を上げたと思う。

- 1) どの子ども理解できる本を選ぶ。
- 2) どの子ども興味を持てる本を選ぶ。
- 3) 読み聞かせの中で理解を促すための発問をし、全員が理解できるようにする。
- 4) ロールプレイ（役割を決めた寸劇）を取り入れて登場人物に共感させる。
- 5) キャラクターマップ（人物相関図）を教師が子どもと協働して描いて人物関係を押さえる。
- 6) どの子ども答えやすく興味を持てる大きな問いを出して発言を引き出してから書かせた。
- 7) 自分で考えられない子には選択肢を与えて選ばせる。
- 8) 授業の初めに前時に読んだところを振り返らせてから先に進んだ。

## 参照文献

Bakhtin, Speech genres and other late essays, 1986

Barbara Guzzetti (Ed), Literacy in America: An Encyclopedia of History, Theory, and \*Practice, Santa Barbara, CA: ABC-CLIO Publishers., 2002, pp. 469?473

Raphael, Book Club: A literature-based Curriculum, Small Planet Communications 1997, 2002

Raphael, Book Club for Middle School, Small Planet Communications, 2001

Raphael, Book Club plus: A Literacy Framework for the Primary Grades, Small Planet Communications, 2004

Raphael, Questioning, Oakland University

Raphael, Thinking for Ourselves: Literacy Learning in a Diverse Teacher Inquiry Network, Article 00-07

Raphael, Book Club +: A Framework for Teaching Critical Thinking, Comprehension, and Writing, NYSRA 2002

Raphael, Book Club: Making Literature Come Alive in the Classroom, 2003 Presentations in PowerPoint

Rosenblatt, Literature as Exploration, 1976

Vygotsky, Mind in society, 1978

Arimoto, Multi Centered Situated Learning: Reconsidering" Legitimate Peripheral Participation pp2-22, Research Bulletin of the National Institute of Research Institute of Japan, 1997 No.28

Arimoto, Development of Curricula and Methods for Training and Student Assessment to Foster Reading Literacy, 2009, National Institute of Educational Research, \*[25]

有元秀文、ブッククラブ入門: 本が好きになり国語の力がどんどん育つ だれでも明日から授業で使えます [Kindle 版]、2016年

有元秀文、小学校教科書教材でできるブッククラブ・ガイド: 有名40教材で楽しく簡単に、読む力・考える力・話し合う力が育ちます [Kindle 版]、2015年

有元秀文、言語力を育てるブッククラブ ディスカッションを通した新たな指導法 T・E・ラファエル 著 有元秀文 訳 ミネルヴァ書房 2012年

有元秀文、ブッククラブ・メソッドで国語力が驚くほど伸びる 合同出版 2011年  
ウィキペディア、有元秀文

<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=%E6%9C%89%E5%85%83%E7%A7%80%E6%96%87&oldid=60162410>